

希望の実現にむけて

熊本県 会社員

橋本 純子（はしもと じゅんこ） 55 歳

大学の男女共同参画推進に関わる仕事をしていた際、担当の教授が毎年 NVEC のフォーラムに出席する姿を見ていつの日か私も行ってみたいと願っていた。

とはいえ、地方に住む私からすると、嵐山は遠い場所。

半ばあきらめていたが、この夏、NVEC40 周年という記念の年に、初めて訪れる機会を得た。

88 歳になっても精力的に活動をおられる赤松良子さん、日本人女性として初めてヴェトナム戦争を取材した平松昌子さん、元内閣府男女共同参画局長の名取はにわさん等々、これまで雲の上の人物と思っていた方々と次々にお会いして直接話をする事ができた。

男女共同参画やダイバーシティといった言葉に加え、女性活躍推進と、近年は社会における女性の地位向上は順調に進んでいるように見えるが、地方都市の現状はまだまだ。

いまだ「男尊女卑」的発想が当たり前のようになされている。

男女共同参画社会に向けての進み具合が遅々としている状況に絶望的な気分になることも少なくなかったが、今回、長年にわたり活動を継続し、今なお、さらには未来に向けて力強い行動を展開する方々に出会えたことは、何よりの収穫であった。

わたしの拠りどころ（希望）は、十代の娘が社会に出る時には、女性も男性も誰もが生きやすい社会になっていること。

これからは、パイオニアとして先を行く先輩たちに負けないよう志を高く持って、若い世代にも引き継ぎながら男女共同参画社会の早期実現に向けて歩み続けていきたい。

NVEC 敷地内に大きく育った樹木のように、女性の希望が大きな成果となって実りを迎えられるよう、国立女性教育会館のさらなる貢献に期待している。